

Vol.1
No.1
Jun. 2006

食育学研究

The Journal of Dietary Education

1. 巻頭言 稲井玲子
2. 第1回日本食育学会議スケジュール
3. 基調講演要旨
 生き生きとした子どもたちを育むために
 —生活リズム向上戦略：1点突破・全面改善の知恵— 前橋 明
4. シンポジウム要旨
5. 学術講演要旨
 「わが国における食育の方向性」 若林和夫
6. 分科会要旨
 - 1) 子どもの分科会
 - 2) 大人の分科会
7. 一般研究発表

第1回日本食育学術会議

講演要旨・研究発表抄録集

期 日：2006(平成18)年6月24日(土) 10:00～17:00
25日(日) 9:30～16:30

会 場：名古屋経済大学
愛知県犬山市内久保61-1
TEL.0568-67-0511 (代)

巻 頭 言

日本食育学会議

理事長 稲井 玲子

「食育基本法」の制定に伴って、食育という言葉がよく聞かれるようになってきましたが、「食育」という言葉は新しい言葉ではなく、明治時代に村井弦斎の「食道楽」という小説で、「小児には、徳育よりも智育よりも体育よりも食育が先。食育が徹底され、健全な心身状態でなければ、他の教育も身につかない」という主旨のことを記述しています。当時の一般庶民の間では栄養学など知ることもなく、また経済的にも物質的にも乏しいために食生活が豊かではなかったために、栄養不足が子どもの心身発達に大きな障害となってとなっており、その改善のための「食育」だったと考えられます。しかし、社会が豊かになった今日は、食糧が見かけ上であるにしろ豊富にあり、栄養不足はほとんど考えられなくなっています。このような現代社会で、今なぜ「食育」が重要になってきているのでしょうか。

食に関する様々な事件（BSEを始めとして鳥インフルエンザや産地偽装問題など）が相次ぎ、一般の人々の食への関心が高まってきております。また、現代の日本は先に記しましたように食糧が一見豊富に溢れていますが、実際には食料自給率が極端に低く、海外からの輸入に頼っているのが現状です。さらに、高齢社会を迎え、医療保険や介護保険の財政難もあり、より健康に生命を全うすることが重要となっています。そこで、現代の「食育」の考え方は、食料の生産・流通から望ましい食生活のあり方までの一連の過程を学ぶことによって、自らの生きる力を養うことを目的としています。つまり、食糧の「食」を学ぶことが、農業や漁業、果ては環境や生命に関することまでさまざまな学習につながることから、生活習慣病の若年化、非行の増加や低年齢化など、社会が抱える問題の解決策となると考えられ、各方面から高い関心を集めています。

「食」という漢字は「人に良い」と書き、「膳」は「月に良い」と書きますが、食欲を満たすだけの食べ物には「餌」と書かれます。すなわち、食べる人の体に良いことを考えた食事は「食膳」ですが、欲望を満たす食べ物を「餌」と呼ぶこととなります。食を大切にすることで一家団欒が成立し、温かい家庭や健康な心身が育ちます。しかし、現代社会では、個食（同じ食卓でもそれぞれが自分の好きなものを食べる）や孤食（一人で食べる）が増加し、一家団欒とは程遠く、もはや家族ではなく同居人の状態になっています。このことに対する警鐘のためにも「食育」が重要と考えられるようになっていきます。

さらに、現代社会では食べ物や栄養に関する情報が溢れていますが、メディアからの断片的な食や健康に関する情報に惑わされ、ややもすると誤った行動に走る人々もおおいようです。これらを改善するためには、「食育」をすすめていくことが一つの方法であると考えられ、多方面の食育活動がすすめられていると思います。これらに関わる食育にとって何が重要であるかは、総合的な情報として教えていかなければならないと考えます。

そこで、明るい生活（健康であること）に関する情報があふれている現状の中で、食育をどのようにすすめていけばかをいろいろな方面（多職種）から考えていこうという主旨でこの度「日本食育学会議」を開催することとなりました。

目 次

1.	巻頭言	i
2.	第1回日本食育学術会議スケジュール	iii
3.	プログラム	iv
4.	基調講演要旨	1
	生き生きとした子どもたちを育むために	
	—生活リズム向上戦略：1点突破・全面改善の知恵—	
	前橋 明（早稲田大学人間科学学術院 教授）	
5.	シンポジウム	9
	日本の子どもの危機を救う、食育への期待	
	座 長 稲井玲子（名古屋経済大学人間生活科学部 教授）	
	シンポジスト 米谷光弘（西南学院大学人間科学部 教授）	
	植木栄壮（リビング広島編集部長）	
	川原晶美（氷見ひかり第一保育園主任保育士）	
	飯塚 陽（JA全農 中国生活事業所）	
	有木信子（岡山県 作陽保育園園長）	
	コメンテーター 前橋 明（早稲田大学人間科学学術院 教授）	
6.	学術講演要旨	19
	わが国における食育の方向性	
	若林 和夫（名古屋経済大学人間生活科学部 教授）	
7.	分科会	25
	1) 子ども分科会	
	司会 山城ミヤ子（鈴峯女子短期大学食物栄養学科教授）	
	話題提供	
	子どもたちの健やかな育ちを考える	
	—食習慣をみつめて—	
	前橋 明	
	2) 大人分科会	
	司会 稲井玲子（名古屋経済大学人間生活科学部教授）	
8.	一般研究発表抄録	33

第1回 日本食育学術会議 スケジュール

6月24日(土)

時 分	9			10			11			12					
	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50		
6 月 24 日 (土)				理事会									受付		

時 分	13					14					15					16					17					18				
	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50
6 月 24 日 (土)	開 会 式	公開講演									シンポジウム					研究発表 A			研究発表 B					懇親会						

6月25日(日)

時 分	9			10			11			12				
	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	
6 月 25 日 (日)	学術講演			研究発表 C			研究発表 D							

時 分	13					14					15					16					17					18				
	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50
6 月 25 日 (日)	総会	研究発表 E				分科会					研究発表 F			研究発表G					閉会式											

プログラム

第1日目 6月24日(土)

10:00-11:30 ----- 理 事 会 -----

12:00 ----- 受付開始 -----

13:00-13:10 ----- 開 会 式 -----

13:10-14:30 ----- 公開講演 -----

基調講演

生き生きとした子どもたちを育むために
—生活リズム向上戦略1点突破・全面改善の知恵—

前橋明 (早稲田大学人間科学学術院教授)

(14:30-14:40 休憩)

14:40-16:10 ----- シンポジウム -----

日本の子どもの危機を救う、食育への期待

座 長 稲井玲子 (名古屋経済大学人間生活科学部教授)

シンポジスト 米谷光弘 (西南学院大学人間科学部 教授)

植木栄壮 (リビング広島編集部長)

川原晶美 (氷見ひかり第一保育園主任保育士)

飯塚 陽 (JA 全農 中国生活事業所)

有木信子 (岡山県 作陽保育園園長)

コメンテーター 前橋 明 (早稲田大学人間科学学術院教授)

(16:10-16:20 休憩)

一般研究発表

A 16:20-16:50

座長 埼玉県立大学 星 永

A-1 沖縄県における離島の幼児の健康福祉に関する研究

—食事に関するリズムと生活課題—

松尾瑞穂

A-2 知的障害者との料理教室を通して得た食育

廣本美知子

A-3 体力づくりのための食育の有効性

熊崎貴仁

(16:50-17:00 休憩)

一般研究発表

B 17:00-17:30

座長 鈴峯女子短期大学 山城ミヤ子

- B-1 学童保育施設における食育の意識調査 坂本めぐみ
B-2 食育のための栄養学
-豚肉と牛肉のコレステロール含量の比較研究- 中川裕子
B-3 幼児期の健康福祉に関する研究
-保育園に通う5歳児の生活時間と朝の排便状況- 泉 秀生

第2日目 6月25日(日)

9:30-10:30

学術講演

わが国における食育の方向性

若林 和夫(名古屋経済大学人間生活科学部教授)
(10:30-10:40 休憩)

一般研究発表

C 10:40-11:10

座長 早稲田大学 奥富備一

- C-1 生活リズムの形成と基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み 片岡あゆみ
C-2 食育の教材に関する研究
-パペット人形による健康指導の試み- 佐野裕子
C-3 大学生の健康福祉に関する研究
-朝食摂取状況ならび睡眠時間と疲労度との関連性について- 板口真吾

(11:10-11:20 休憩)

一般研究発表

D 11:20-12:00

座長 作陽保育園 有木信子

- D-1 朝食は一日の食事の基本
-朝食摂取と運動選手の体格・体力の関係から- 野田哲由
D-2 サプリメントを過信してはいけない 矢野康平
D-3 子どもの食育教育のための指導プログラムの提案 黒田 薫
D-4 保育園における食育 荒戸裕香里

(12:00-13:00 昼休憩)

13:00-13:20

総会

(13:20-13:30 休憩)

一般研究発表

E 13:30-14:10

座長 広島文化短期大学 山下由美子

E-1 伝承料理

—魚の有効利用—

仲島奈菜

E-2 朝食摂取と口臭成分の関連について

佐野祥平

E-3 食品の機能性からみた食育の一考察(1)

—りんごを皮ごと食べることの意義—

谷本紗彩

E-4 障害者・高齢者が楽しく食事をするための福祉用具(自助具)

—現場での使用実践の一考察—

平井佑典

(14:10-14:20 休憩)

13:20-15:00

分科会

(15:00-15:10 休憩)

一般研究発表

F 15:10-15:50

座長 島根県立女子短期大学 名和田清子

F-1 幼児期における豊かな心を育む食環境の整備について

—朝食摂取状況から考える—

古屋かな恵

F-2 所沢市の幼児の保護者が食事について困っていること

浅川和美

F-3 児童の食の実態と健康生活

—小学4・5年生を対象に—

牧野千絵

F-4 生活習慣病予防のための食育の必要性(Ⅰ)

—食品の機能性(食物繊維)の利用—

伊丹純子

(15:50-16:00 休憩)

一般研究発表

G 16:00-16:40

座長 鶴見大学歯学部 佐野祥平

G-1 幼児の生活習慣に関する研究(Ⅱ)

—就寝時刻別にみた幼児の食に関する生活課題とその対策—

五味葉子

G-2 若年者における食育の必要性(Ⅰ)

—メタボリックシンドローム予防への食生活改善の有効性—

桧垣俊介

G-3 食育における家庭への提言

—北海道・岡山・広島・高知の比較—

上野晋作

G-4 保育園における食育

—給食だよりを通じての保護者啓発—

珍部瑞枝

16:40 閉会式